

# 郷土資料館だより

Vol.41 No.1  
2018.8.1

明治150年 富士・沼津・三島3市博物館共同企画展 幕末・明治の富士・沼津・三島

## 「近代三島をつくった人々」(前期 政治・教育編) 開催中

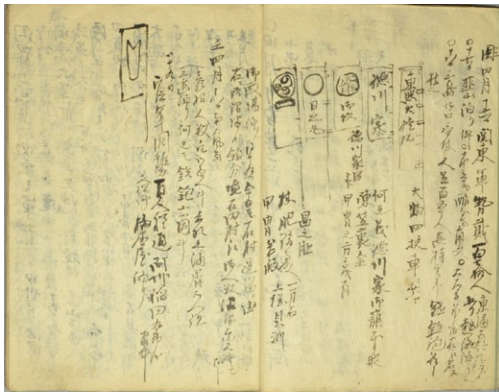
●開催期間 平成30年6月23日(土)～9月24日(月・祝)

共同企画展 他館の開催情報

富士山かぐや姫ミュージアム 産業のまち 富士の幕開け 7月28日(土)～10月21日(日)

沼津市明治史料館 御一新!～庶民が体験した沼津の幕末維新～ 7月1日(日)～9月30日(日)

幕末維新を経て成立した明治新政府は西洋文明を積極的に取り入れ、近代的な産業を興し、中央集権的な国づくりを進めました。このような変革は江戸時代から蓄積された地域の力があって初めて成し遂げられたものです。今回の企画展では維新の混乱をくぐり抜け、明治に入ってから学校をつくり、鉄道を敷設し、新たな産業を興していった地域の人々を中心に、明治期の三島を紹介します。



### ■官軍御用日記

慶応4年(1868、明治元)～明治2年

高木家文書、個人蔵

戊辰戦争時に三島宿を往来した新政府軍・旧幕府軍について、周辺大名の動向を交えながら記している。この写真の部分では旧幕府軍のひとつ、遊撃隊が三島宿を通過した際に掲げていた徳川家などの旗印が書き留められている。



### ■三島覺扁額

三条実美 書、明治11年(1878)、市指定文化財

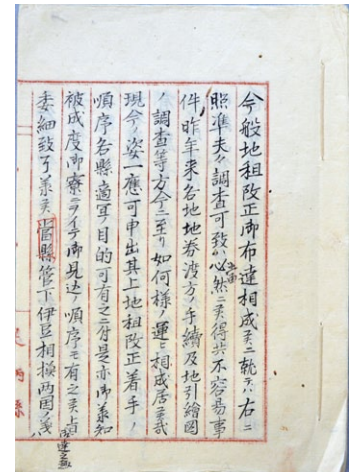
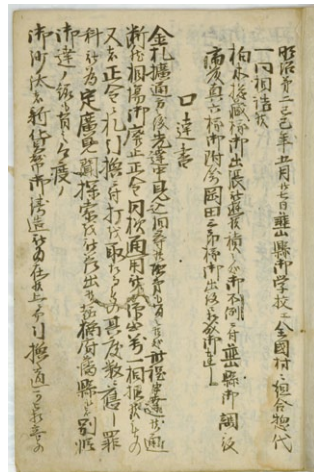
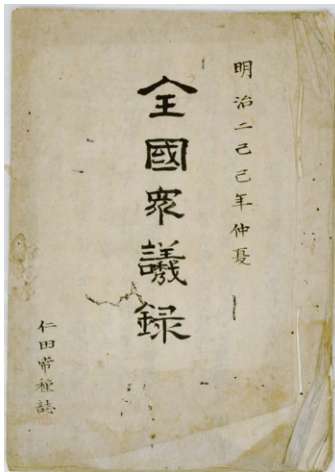
三島で初めてつくられた小学校、三島覺(三島学校)のために当時の太政大臣三条実美が書を寄せたもので、校舎玄関に掲げられていた。

### ●伊豆の近代をつくった柏木忠俊と足柄県政

企画展では三島市域を中心に展示を行っていますが、ひろく伊豆全体の近代化についてみると、柏木忠俊を中心とした旧葦山代官役所の手代・手付たちが重要な役割を果たしていました。

柏木忠俊は幕末の葦山代官江川英龍(坦庵)に早くから才能を認められていた人物で、英龍の行った様々な施策に携わりました。英龍の死後は、若い江川家当主英敏・英武を盛り立て、明治元年に旧葦山代官領を中心として成立した葦山県でも実質的に行政を主導する役割を担いました。葦山県廃止後に成立した足柄県では参事から権令、県令(県知事に相当)へと昇進しています(柏木が県令になる以前の足柄県には県令は不在。)

葦山県や足柄県では産業振興のための金融機関である伊豆国生産会社の設立、地方民会(明治11年に府県会規則が制定される以前の、地方により独自に開かれた議会的な集まり)の早期開催など、短期間の間に特徴的な施策が実施されています。以下では今回の展示資料の中から民政に優れた足柄県政の特徴を示す資料をいくつか紹介します。



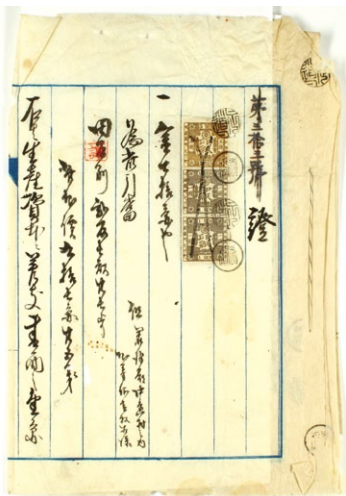
■全国衆議録(写真左・中央) 明治11年(1878)以降か、仁田家文書

柏木によって明治2年に招集された地方民会の記録。全国(伊豆国全体のこと)の各地区から代表者が集まり、勸農・殖産のための貸付金の返却方法、学校・病院の設立などについて話し合われた。

柏木は、新政府の施策を県下全域にすみやかに行き渡らせて安定的な県政運営を行うには人々の意見をくみ取る機会が必要であると考えたのであろう。さらに、柏木は福沢諭吉との親交を通じてイギリスの議会制度への理解を深め、明治2年という極めて早い時期にこのような開明的な取り組みを実現するに至った。

■地租改正調査書面(下書)(写真右) 明治6年(1873)、柏木秀俊氏蔵

柏木県令から政府に提出された地租改正に関する提案書。提案にあたっては、江戸時代の伊豆国は幕府直轄領・大名領・旗本領が混在していたため、検地帳などの帳簿類の様式などが統一されていない、といった地域の現状が踏まえられている。



■証(伊豆国生産会社への借用書)明治11年(1878)、中島 落合家文書 市指定文化財

中島村の住民が所有する田を担保に生産会社から金70円を借用している。「資本ニ差支」とあり、何らかの事業資金として借りたことがうかがえる。伊豆国生産会社は新しい産業を興そうとするものに資金を提供する民間の金融機関だが、幹部には県関係者らが名を連ね、運営には県が大きくかかわっていた。新しい事業への融資や、蚕繭や製茶の品評会を開催するなど伊豆の殖産興業に大きな役割を果たしたほか、零細農民向けの特別融資制度を設け、資金の返済に物納を認めるなど、庶民が利用しやすいよう工夫した融資制度で地域全体の産業の底上げを図った。

今回紹介した諸施策に共通するのは、新政府によって進められる様々な変革に対応するため、地域の実情を熟知した上で実施または提案されたものであるという点です。これらの施策を実行した県職員には柏木をはじめとした旧蕪山代官の手代・手付らが多数ふくまれています。民政に優れ、西洋の新しい考えや技術を取り入れる柔軟さを持った江川代官のもとで働いてきた人材により、明治以降も引き続き安定した行政が行われたことは、伊豆地域の近代化に大きく貢献しました。

次回企画展 10月13日(土)～平成31年1月3日(木)

企画展 「近代三島をつくった人々」後期 経済・文化編

豆相鉄道(現在の伊豆箱根鉄道駿豆線)などの鉄道を中心とした交通の発達、花島煉乳場などの産業の振興、近代化を支えた人材の文化的な活動やつながりなどを紹介します。



## 三嶋大社の古文書を読み解く 4

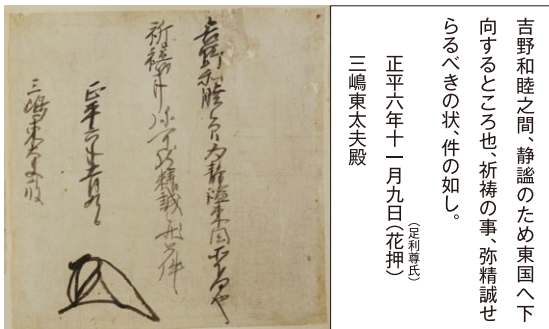
## ◆足利尊氏の古文書③ 観応の擾乱～南朝の元号を用いた尊氏～

前回の建武2年(1335)12月11日付け足利尊氏寄進状では、建武政権との決別を決意した足利尊氏と、劣勢をね返した戦い、箱根竹ノ下の戦いについて詳述しました。今回はその後の尊氏を追うこととしましょう。三島を中心とするその攻防の直後、足利勢は京都への反攻を開始。一時西国へ敗走するものの、九州・四国・中国地方の武将らを味方につけた尊氏は、建武3年6月、京を手中におさめ、後醍醐天皇とは和睦します。天皇の吉野への脱出は同年12月、時代は南北朝の動乱へと移ります。しかし戦いの初期、南朝方は楠木正成・北畠顕家・新田義貞ら有力武将を次々と失い、後醍醐天皇も病にて崩御(暦応2年<1339/南朝:延元4年>8月16日)。早くに北朝側、そして室町幕府の基盤はかたまりつつありました。そこに起きたのが、観応の擾乱と称される幕府の分裂抗争です。尊氏の弟足利直義と、尊氏の執事高師直の対立をきっかけとする深刻な抗争劇の始まりです。これは次のような経緯を辿ります。

第一期[貞和5年(1349)閏6月～] 足利直義による高師直暗殺計画に始まり、8月以後は高師直派の逆襲で、直義が引退に追い込まれる。

第二期[観応元年(1350)10月～] 直義が京都を脱出し、南朝に降伏。尊氏は高師直派を支援し、抗争は尊氏・直義兄弟の戦いに発展。観応2年2月、摂津国打出浜の戦いで直義派が勝利し、降伏した高師直らは殺害される(2月26日)。尊氏と直義は和睦し、直義が政権を掌握。

第三期[観応2年(1351)7月～] 尊氏派が巻き返し、直義が京都を出奔。11月、尊氏は南朝と和睦し、北朝が一時消滅。直後、両者の最終決戦が行われる。

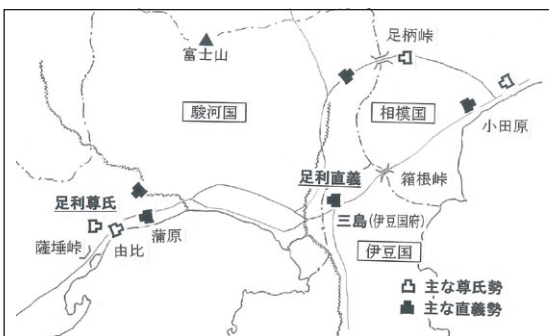


吉野和睦の間、静謐のため東国へ下向するところ也、祈祷の事、亦精誠せるべきの状、件の如し。

正平六年十一月九日(花押)  
(足利尊氏)

三嶋東太夫殿

今回の古文書は、第三期、尊氏が南朝と講和した直後のもの。この間の事情を時系列で示します。講和の手続きがほぼ終了するのは11月3日で、翌4日、尊氏は東国へと出陣。7日に崇光天皇が廃され北朝が消滅。そして9日、尊氏は東下する陣中で、三嶋社神主東太夫に宛てて勝利の祈祷依頼を発信します(写真、正平6年11月9日付け足利尊氏御判御教書)。吉野方(南朝方)と和睦が成ったので、東国の鎮定のために下向することを告げています。記した正平6年は南朝年号。和睦の事実是这样していち早く東海・関東へと伝達されたのでしょうか。ここに至るまでの様々な経緯も、使者の口からもたらされたかも知れません。



尊氏と直義 最後の戦い 主な軍陣展開図

代を画すこととなりました(戦い全般を薩埵山の戦いとも称しています)。

直義が三嶋大社に奉じた和歌が『新千載和歌集』に遺されました。

くらきよりくらきにまよふ心をも はなれぬ月を待つぞはかなき

和泉式部が、煩惱の闇へと迷い込みそうな心根に相対した際、救いを求め心のうちを詠じた和歌「くらきよりくらき道にぞ入りぬべき はるかに照らせ山の端の月」を引いたようです。奉納時期は不明なるも、当て推量をお許しいただけるならば、兄との決戦を控えた三島在陣時、歩む先の見通せないでいる心情を吐露したものと解したいところです。なお、降状した直義は2月26日に鎌倉で死去。高師直らが殺害されたちょうど1年後の同日でした。

(郷土資料館運営協議会委員 三嶋大社宝物館 学芸員 奥村徹也)

## 三島の歴史とジオポイント 13

### —秋葉神社—

火伏の神・ホムスビノミコトを祀る秋葉神社(加屋町4-3)は、三島宿西の入口、「西見付」に設置されていた「喰違くいちがい土手」の南側土手の上面を境内として鎮座しています。この土手は正徳元年(1711)に現在の広小路駅付近にあったものが移されました。当神社は三島宿を火災から守るため、寛政5年(1793)に祀られました。

土手の西側は比高約4mの崖で境川低地に落ち込みます。幸原町の青木橋付近で大場川に河川争奪され涸れ川となった境川は、清水町・地方神社ちかた一帯の湧水地で回春し、御殿場泥流層を深く浸食しています。

土手には石垣が組まれています。平成元年の石垣組み直しの際には、石垣下の盛り土から江戸時代後半(1820年頃など)の陶磁器類や布目瓦が出土しました。瓦は広小路駅北側にあった伊豆国分寺のものが、土手の移動の際に紛れ込んだのでしょう。

境内に上がると、二本の石柱が立っています。壊れた石鳥居の柱を記念に残したものです。奥側の石柱は長岡凝灰岩上部層製で「茅町 秋葉講中 世話人茅町中」「文政八年(1825)乙酉二月□□建之」などと彫られています。

入口側の石柱は、安山岩質の緻密な火山岩製で「問屋朝日 世古 樋口」等、三島宿の有力者の名前が彫られています。参道の両側には三島溶岩製の鳥居の台石が残され、切り取られた柱の基部が認められます。境内東側の土止めに壊れた石製の笠木が置かれています。これらは入口側の石柱と同質です。

「東海道分間延絵図」(1806年)や「三島風俗絵屏風」(天保年間<1831~45>とされる)には土手の上に神社などの建造物は描かれていません。

文政8年に土手や石垣の修復が行われ、茅町の住人が中心となり、石鳥居が新設されました。しかし安政元年(1854)の大地震で、社殿や鳥居は壊れました。仮社殿が作られ、昭和末まで使われていました。鳥居も時を置かず、三島宿の人達が作り直したようです。この鳥居も昭和5年(1930)の北伊豆地震で壊れました。現在の鳥居は花崗岩質製で平成元年に設置されました。

境内の左手には、壊れた大きな、斜長石と輝石の斑晶の目立つ火山岩製の頑丈な石燈籠が置かれています。「寛政五年十一月吉日」「秋葉山常夜灯」「奉献常夜燈」などと彫られています。この燈籠は「東海道分間延絵図」では神社の東側約20mの脇道(野道と記載されている)の入口に描かれている「宿場のはずれ」に設置された常夜燈です。

両絵図から推定すると、「秋葉神社の祠」は当初、この常夜燈の西側、土手の東側の木立の辺りにあったのでしょう。

神社入り口にある「秋葉神社」の石柱は、三島溶岩製で昭和16年に設置されています。境内には推定樹齢300年とされる椋木(ムクノキ)の大木があります。両絵図では土手上に樹木は描かれていません。椋木は成長が早いので実際の樹齢は200年を少し超える程度でしょう。

伊豆と駿河の国境に祀られた小さな神社ですが、郷土の歴史をたくさん教えてくれます。壊れた石燈籠や石柱なども含め、これからも大切に保存していただきたいです。

(郷土資料館運営協議会委員 増島淳)



秋葉神社全景



石燈籠と鳥居の台石



# 大岡信を育んだ三島と湧水 (1)

## —奈良橋 (中田町)・南小時代—

詩人で文芸評論家、連詩の普及に努めた大岡信氏(昭和6年(1931)～平成29年(2017))は三島に生まれ、小・中学時代を三島で過ごしました。昭和初期から戦争をはさんで戦後の復興期の時代、多感な少年だった大岡氏の周囲の環境がどのようなものであったか紹介します。(文中、敬称略)

### 1 大岡信が生まれたころの三島の状況

現在の三島市の中心地域は、昭和16年(1941)まで三島町と呼ばれていました。ここは江戸時代、箱根越えの旅人が宿泊する東海道の宿場町として栄えましたが、東海道線(御殿場を經由)の開通(明治22年1899)により旅客が減少し、旅館街から北伊豆の商業の中心へと変化をとげます。大正8年(1919)町の北部に野戦重砲兵連隊が駐屯し、軍人の姿を街中でよく見かけるようになります。

昭和5年11月に起きた北伊豆地震により、三島町のおよそ半数の家が全・半壊し、小学校・役場が潰れるなど大きな被害がでました。大岡信が生まれたのはその復興の時でした。街が生まれ変わり、三嶋大社前の旧東海道と大社から南へ伸びる下田街道の道幅が拡張されます。街道沿いにはモダンな商店が建ち並びます。また、三島町民の長年の夢だった丹那トンネルが開通し、昭和9年12月には現在の東海道線三島駅が開業します。地震からの復興と駅開業で三島の街はにぎわいました。

昭和10年北上村と合併し、同16年には錦田村とも合併して「三島市」となります。

### 2 奈良橋の家とその周辺

大岡信が小学校時代まで住んだ奈良橋の家は、現在の中田町、当時の新興住宅地でした。

三島町は、江戸時代より東海道と下田街道に家々が並んでいました。明治31年(1898)に開通した駿豆鉄道(現伊豆箱根鉄道)が町の北西から南側を回り、そこに設けられた三島町駅(現三島田町駅)が町民の利用の中心でした。中伊豆方面からきた人々もこの駅で降り、下田街道や大社周辺の小路に立ち並ぶ商店、職人の店などに立ち寄り、買い物や道具の修繕を依頼し、大社に参拝していききました。

三島町駅の北側が賑わっていたのに比べ、南側は一面水田地帯でした。駅のすぐ南側の台地には江戸時代、御蔵場(現三島キリスト教会の地)があり、この横から南に伸びる道を御蔵場道と称しています。御蔵場は明治に入ると、田方郡役所や三島高等小学校が建つ公共用地となります。

台地の下の水田地帯に家が建つようになったのは大正時代からです。大岡信の奈良橋の家(現西願医院の北側付近)の南側は道路が整備され平屋の家が10数軒建ち、軍人や教員などが住んでいました。

このあたりは「奈良橋前」という地名で西から南を御殿川に囲まれており、地下水が豊富に湧く地域で、掘り抜き井戸が各所にありました。三島の湧水は富士山の雪解け水が溶岩の間を通過して湧き出したもので、一年中15度前後の水温を保ち、夏は特に冷たく感じました。御殿川沿いには戦前、湧水を利用した魚市場や製氷所があり、各家ではあふれるほどの冷たい水でスイカを冷やし、野菜を洗い、顔や体を洗ったものでした。

### 3 三島町立南尋常高等小学校時代と水遊び

大岡信の家から御蔵場道を南に500mほど歩くと、一面の水田の真ん中に建つ南尋常高等小学校につきます。北伊豆地震により、昭和6年にこの地へ新築移転したものです。学校への道の途中には「ウサギ屋」(兎の肉を扱っていたという)、魚市場、三島工業、文具屋、桶屋などがぽつぽつ立っていたようです(南小『百年のあゆみ』1973より)。大岡は昭和12年～18年の間通学しています。

昭和10年代の南小の子供たちが夢中になっていたものの一つが模型飛行機やグライダーの製作で、大岡信は模型飛行機づくりが上手だったといわれています(同窓生 水野春雄氏談)。南小の校史『百年のあゆみ』によれば、昭和10年代後半、6年生になると工作の時間に競技大会用の飛行機を作り、昭和19年に草薙で催された県大会で優勝したとあります。

夏の遊びは川で泳ぎ、魚をとることでした。南小の西に流れる源兵衛川は4本に分岐して南の中郷地域の水田を潤していました(当時は国道1号、中郷温水池はなかった)。源兵衛川にあった水門、通称「どんどん」の下は深く、魚も多くいて、子供たちの絶好の遊び場でした。ガラスのハヤビンや箱メガネを使い、魚は手軽にとれたそうです。水中には三島梅花藻や川藻が揺らぎ、水面には蜻蛉や水生生物がうごめき、初夏の川沿いには蛍が大量に発生していました。昭和30年代中ごろまで湧水が豊かな時代が続き、こどもたちの川遊びの光景は三島の夏の風物詩でした。大岡信の詩には水辺の風景が生き生きと詠まれています。(郷土資料館学芸員 福田淑子)

## 平成 29 年度 郷土資料館事業報告

### ●企画展

展 示 名	実 施 期 間	主 な 展 示 内 容	入 館 者 数
「三四呂人形展 —これまでと、これから—」	平成 29 年 2 月 4 日 (土) ～ 5 月 28 日 (日)	三四呂人形及び関連資料を多数展示	19,409 人 (10,458 人)
		関連事業：展示解説 (H29.4/29、4/30、5/27、5/28) 計 63 人 三四呂人形のぬりえにちょうせん 288 人	
「三島のたからもの一市の 指定文化財を大公開！—」	前期：歴史編 6 月 3 日 (土) ～ 8 月 6 日 (日)	三島市には現在、指定文化財が 47 件あり、今回の展示では、 市指定文化財の中から歴史資料と美術品を中心に展示。	8,352 人
	後期：美術編 8 月 8 日 (火) ～ 9 月 10 日 (日)		6,736 人
		関連事業：展示解説 歴史編 (7/1、7/16) 計 41 人 美術編 (8/26、9/2) 計 28 人 「向山古墳群見学ツアー」(8/30) 計 23 人 郷土資料館芦川館長、郷土文化財室辻学芸員	
「キッズびじゅつ展 in みしま ～こどものみた世界～」	9 月 15 日 (金) ～ 10 月 1 日 (日)	「キッズアートプロジェクトしずおか」が主催する展覧会。 本展では、MOA 美術館が開催している全国児童作品展の優秀作品を展示。	入場者数 947 人
		関連事業：「切り絵ワークショップ」(10/1) 計 10 人 講師：福井利佐氏 (切り絵アーティスト)	
静岡県立美術館移動美術 展「富士山と静岡ゆかり の画家たち」	9 月 15 日 (金) ～ 10 月 15 日 (日)	今回の移動美術展では、平木政次、五姓田義松、和田英作といっ た画家の富士山をモチーフとした作品と、静岡ゆかりの画家 である栗原忠二、柏木俊一、曾宮一念の作品などを展示。	入場者数 2,195 人
		関連事業：静岡県立美術館学芸員によるフロアレクチャー (9/24、10/8) 計 27 人 静岡県立美術館ボランティアによるギャラリートツアー (10/1、10/15) 計 26 人	
「挿絵で見る江川太郎左衛門英龍」	10 月 28 日 (土) ～平成 30 年 2 月 12 日 (月)	小出正吾による伝記『江川太郎左衛門の話』のために描かれ ながらも使用されることのなかった日本画家渡部菊二による 挿絵を中心に展示。	24,185 人
		関連事業：展示解説 (11/19、11/26) 計 35 人	
「新規収蔵品展 —三島の明治から昭和—」	平成 30 年 2 月 24 日 (土) ～ 6 月 3 日 (日)	平成 27 年～29 年の間に、市民の皆様から寄贈していただいた 歴史・民俗・美術資料と、郷土資料館が購入した歴史資料を 展示。	2/24～3/31 6,176 人 4/1～6/3 10,928 人 合計 17,104 人
		関連事業：展示解説 (H30.4/28、5/20) 計 36 人	

### ●その他の展示

三嶋曆師の館、西小学校郷土資料室、生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」

### ●郷土教室・講座・講演会

	講 座 名	開 催 日	人 数	講 座 名	開 催 日	人 数
郷 土 教 室	こどもの日体験デー	5 月 5 日 (金・祝)	105 人	ミニわらぼうき作り	10 月 7 日 (土)	35 人
	古代のくらし	5 月 20 日 (土)	57 人	古代のくらし	10 月 21 日 (土)	5 人
	江戸時代の三島宿	6 月 4 日 (日)	53 人	楽寿園の自然	11 月 4 日 (土)	111 人
	江戸時代の三島宿	7 月 16 日 (日)	82 人	江戸時代の三島宿	11 月 12 日 (日)	71 人
	昔のくらし (回想法)	7 月 29 日 (土)	94 人	昔のくらし	11 月 12 日 (日)	101 人
	機織り体験 講師：杉山洋子氏 (ギャラリーあさひ)	7 月 29 日 (土)	12 人	ミニチュアうどん作り	11 月 18 日 (土)	4 人
	昔のあそび大会	8 月 9 日 (水)	42 人	わら細工	12 月 16 日 (土)	71 人
	型染め体験	8 月 22 日 (火)	21 人	リリアン編み	1 月 20 日 (土)	12 人
	楽寿園の自然	8 月 27 日 (日)	81 人	紙漉き体験 協力：三島ゆうすい会	2 月 3 日 (土)	92 人
	江戸時代の三島宿	9 月 2 日 (土)	59 人	昔のどうぐ	2 月 17 日 (土)	34 人
	昔のあそび	9 月 24 日 (日)	82 人	遊んで学ぼう富士山デー	2 月 23 日 (金)	106 人
	切り絵ワークショップ 講師：福井利佐氏	10 月 1 日 (日)	10 人	江戸時代の三島宿	3 月 11 日 (日)	49 人
郷土教室合計 24 回、参加者 1,389 人						
講 座	ふるさと講座 「箱根旧街道ウォーキングジオツアー」 講師：増島 淳氏 (静岡県地学会東部支部長)	5 月 30 日 (火)	22 人	講 演 会 3 市博物館連絡協議会 明治維新 150 周年記念 「伊豆地域の近代化と旧韭山代官所」 講師：今村 直樹氏 (熊本大学永青文庫研究センター准教授)	1 月 28 日 (日)	49 人
講 演 会	「江川坦庵と幕末反射炉ブーム」 講師：植松 三十里氏 (歴史時代小説家)	11 月 11 日 (土)	83 人	講 座 ふるさと講座「向山古墳群見学ツアー」 講師：郷土資料館芦川館長、郷土文化 財室辻主任学芸員	8 月 30 日 (水)	23 人



## ●三島地域資料研究会主催

講座名		開催日	人数	講師
文化財ボランティアスキルアップ講座	① ボランティア全体会 開講式 三島の指定文化財（展示解説）	9月10日（日）	28人	郷土文化財室職員 郷土資料館職員
	② 文化財の保存	9月28日（木）	16人	株式会社墨仁堂 山口 喜子氏
	③ 古文書修復実習 （古文書の糊継ぎなど）	10月12日（木）	15人	株式会社墨仁堂 山口 喜子氏
	④ 文化財レスキュー （文化財の取り扱いに関する実習）	12月2日（土）	20人	静岡県文化財保護課 菊池 吉修氏
	⑤ 館外視察研修 （神奈川県大磯町郷土資料館ほか）	2月27日（火）	27人	大磯町郷土資料館職員 神奈川県立生命の星・地球博物館職員
<b>文化財ボランティア活動</b>				
地域の文化財調査、古文書の整理・調査を行う。（石造物調査グループ22人登録、古文書整理グループ32人登録）				
◆石造物調査事業（年間9回 延べ97人参加） 毎月1回、梅名・安久・大場地区の石造物調査を実施				
◆古文書整理事業（年間19回 延べ223人参加） 毎月2回、贅川家文書、安久杉山家文書の整理				

## ●団体見学

26件 1,740人（市内小学校15件、市外小学校9件、その他2件）

## ●資料の収集、保管状況

平成29年度末現在 収蔵資料総数 42,517点（民俗6,487点、歴史35,222点、美術776点、自然32点）  
平成29年度新規受入資料数 25件（内訳：寄贈23件、購入2件）

## ●刊行物

「郷土資料館だより」118～120号  
 図録『挿絵で見る江川太郎左衛門英龍』  
 『三島宿関係史料集9（三島問屋場・町役場文書）』  
 『三島市郷土資料館研究報告10』  
 史料集『秋山富南編 豆州志稿』（PDF版）（三島地域資料研究会編）  
 史料集『秋山富南著伊豆勝覧』（三島地域資料研究会編）  
 『安久杉山家文書目録2』（三島地域資料研究会編）  
 『三島地域資料研究会活動報告2』（三島地域資料研究会編）

## ●平成29年度 開館日数 312日 入館者数 65,930人

## 企画展「新規収蔵品—三島の明治から昭和—」報告

- 開催期間 平成30年2月24日（土）～平成30年6月3日（日）
- 展示資料数 148点 ●入場者数 17,104人
- 関連事業 展示解説 4/28（土）、5/20（日）11:00～、13:30～ 各回30分程度  
参加者 合計 36人（4/28 24人、5/12 12人）



平成27年から29年の間に寄贈していただいた資料・購入した資料を紹介しました。多様な資料の中からテーマを絞り、三島の近代を幅広く知っていただけるような展示となるよう努めました。

入館者の方々からは、戦前の北上地域を伝える和優講・奉納相撲の資料や、楽寿園を造営した小松宮彰仁親王の資料、また前回の東京オリンピック聖火リレーの資料や下駄スケートなどに多くの反響がありました。アンケートでは「昔の物の展示品が懐かしかった」「よくわかった」「面白かった」などの感想をいただきました。

## ふるさと講座「伊豆半島ジオパーク探訪⑥東伊豆ジオ・ツアー」報告

- 開催日 平成30年5月31日（木） 8:30～16:40
- 講師 増島 淳 氏（静岡県地学会 東部支部長） ●参加者 25人
- 見学ジオポイント 大室山・城ヶ崎海岸・一碧湖など

伊豆半島が長い時間をかけて、多くの火山噴火で形成され、溶岩や噴出物の性質によりさまざまな形態・地形・景観となったことを実感したツアーでした。増島先生は各ジオポイントで特徴ある地形・形状・地質などを、わかりやすく解説され、参加者は伊豆のジオについてより深い関心を持つことができました。アンケートをみると、説明がわかりやすかった・勉強になった、というコメントが多く寄せられました。



## 郷土教室・体験イベントの報告とこれからの予定

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成30年3月から6月までに行った事業をご紹介します。

日 程	郷土教室	内 容	参加者
3月11日(日)	江戸時代の三島宿	立版古作り、三島宿の展示解説、くずし字ハンコのしおり作り	49人
5月5日(土祝)	こどもの日体験デー	紙工作で鯉のぼり・かぶとを作る	90人
5月26日(土)	三島の昔の紙芝居	三島の昔話を紙芝居にして上演	61人
6月30日(土)	江戸時代の三島宿	旅人衣装の着用体験、三島宿の展示解説、くずし字ハンコのしおり作り	39人



くずし字ハンコのしおり作り

## これからの郷土教室の予定

日 程	郷土教室	内 容
8月4日(土)	クラフトづくり	楽寿園の木や枝を使って工作にチャレンジ
8月23日(木)	紙漉き体験	和紙や洋紙(普通の紙)どちらか選んでオリジナルハガキをつくってみよう! 協力:三島ゆうすい会
8月25日(土)	楽寿園の自然	身近な材料を使った噴火実験(荒天中止、①10時半〜/②13時半〜、各30分程度)
9月1日(土)	楽寿園の自然	ドングリ工作、葉っぱの拓本をつくろう
9月15日(土)	紙で幻灯機をつくろう	紙工作で幻灯機(スライド映写装置)づくり ★要申込(～8/24まで受付、応募多数時抽選) 対象:小学生以上(小3以下保護者の協力必要) 定員:10名

今年も楽しい体験イベント盛りだくさん!夏休み中もやってるよ!郷土資料館においでよ!

## 寄贈資料の紹介

平成30年2月から6月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。(寄贈者の方の希望により一部個人名を伏せて表記しています)

## ●寄贈資料

寄贈者	資料名	点数
山本 邦夫氏(三島市)	鉱石	3点
瀬川 眞氏(三島市)	野口三四郎木彫「猿芝居」、複製三四呂人形、三嶋暦(文久4年)	4点
個人(三島市)	計算尺(昭和初期)、昭和20～23年発行図書「科学の芽生え」ほか	5点
個人(長泉町)	明治大帝御聖徳御写真帖(昭和8年)	1冊
土屋 基子氏(金沢市)	三四呂人形「かぐら」「メリーさん」	2点
個人(三島市)	石臼(三島石)、みの	2点
三島市役所	アルバム(戦前、昭和40年代～平成元年)、写真、ネガ一式	37冊、7点

## 平成30年度職員紹介

館長 芦川忠利(郷土文化財室室長と兼務)  
職員 平林研治 柿島綾子 福田淑子 秋山朋弘 笹山曜子  
光井貴子(5月より) よろしくお願ひします。

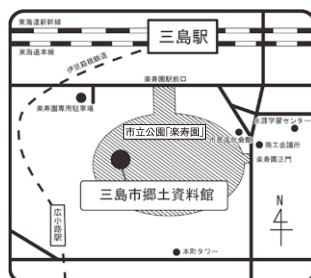
## 郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)  
午前9時～午後4時30分(11月～3月)

休 館 日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、  
年末年始

入 館 料 無料(ただし楽寿園入園料として別途  
300円がかかります。15歳未満は無料、  
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

## 郷土資料館だより

Vol.41 No.1(第121号)

発行日 平成30年8月1日(年3回発行)

編 集 三島市郷土資料館

発 行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>

HPをリニューアルしました ご覧ください